

↓黒川小学校の児童や黒川町の住民・市の関係者により宣言文が読み上げられました



9.3

みんなの広場



柳田邦男うちどく講演会 日本一のうちのまちへ

黒川公民館で、『柳田邦男うちどく講演会』がありました。これは、黒川町家読 10 周年記念事業として、黒川町家読連絡会が実施したものです。講演に先立ち、読書によるまちづくりの実現を願い、市全体でうちの取り組みをさらに推進するため、『日本一のうちどく推進のまち・いまり』を宣言。続く講演で講師の柳田邦男さんは、「子どもの頃読んだ本が人生の方針を考えるきっかけになる」と話し、幼少期の読書の重要性を呼びかけました。



「絵本は子どもの心を動かす魔法である」と話す講師の柳田さん



講演会の前に開催されたワークショップ

伊万里のいきもの展 いきもの世界はふしぎがいっぱい

市歴史民俗資料館で伊万里のいきもの展が開催されました。伊万里などに生息している生き物に触れてもらおうと、動物の標本約 150 点のほか、市内で採集された淡水魚やカブトムシなど約 20 種類を展示。訪れた家族連れなどは、職員の説明を聞いたり、手で感触を確かめたりしながら、珍しい標本や多くの生き物に興味深そうに見入っていました。



7.24-8.31

↑展示された標本は、ふだん見ることのない珍しいものばかり

↓人気の絵本『おへそのあな』の読み語りを笑顔で行う年中児



8.20

家読フェスティバル in 波多津保育園 絵本でつなぐ家族の絆

波多津保育園で、波多津町家読フェスティバルがありました。年中・年長児が、この日のために練習してきた絵本の読み語りや劇などを披露したあと、保護者が、『なみっ子文庫』や家読リレーなど園での家読の取り組みを紹介。講話では、講師の犬塚まゆみさん（元市民図書館長）が、読書能力の発達段階に合った読書の大切さを訴えました。

このコーナーでは、あなたの周りの身近な出来事や話題を待っています。市役所情報広報課広報係までご連絡ください。(☎234313広報係直通)

魅力あふれる伊万里を堪能

日帰り体験バスツアー『畑の中のレストラン』が開催されました。この日は、市内と福岡市近郊から39人が参加。名村造船所の見学や梨狩り体験、大川内山の散策などを行いました。昼食では伊万里牛やさくらポーク、有明地鶏の焼き肉を堪能。参加者たちは観光資源が豊富な伊万里の魅力に触れて、夏のひとときを楽しんでいました。



8.20

↑新幸農園（松浦町）で梨狩りを楽しむ参加者

↓踊りの装束や構成が古来からの原形をとどめているとされる



8.21

地域で脈々と継承される伝統

東山代町脇野の宝積寺境内で、地区の夏祭り『万燈の夕べ』の開催に合わせ、『脇野の大念仏』が奉納されました。これは、脇野地区に古くから伝わる念仏踊りで、県重要無形民俗文化財に指定されています。屋外での開催は3年ぶりとなり、夕暮れ時の幻想的な雰囲気の中で厳かに響く太鼓や笛の音色を、観客たちは静かに聞き入っていました。

東京スカイツリーで伊万里の物産などをPR

市物産観光振興協議会が、東京スカイツリーで伊万里の物産や観光資源をPRしました。観光ポスターやパンフレット、伊万里焼の風鈴を展示したほか、観光客にふるさと応援寄付金の募集チラシなどを配布。20日の『伊万里の特産品が当たるモーモちゃんとのじゃんけん大会』では、子どもから大人まで多くの人に参加して盛り上がっていました。



8.19-25

↑大盛況だった『いまりんモーモちゃんとのじゃんけん大会』

↓古賀恭二総務部長に防災手帳を手渡す番場義昭副支部長(右)



8.31

防災手帳『災害時連絡方法のてびき』贈呈式 災害用伝言ダイヤルは『171』

公益財団法人日本公衆電話会佐賀支部が、『災害時連絡方法のてびき』1,000冊を市に寄贈しました。冊子は、大災害発生時の安否確認に使う災害用伝言ダイヤルや、災害時につながりやすい公衆電話の使用方法などをわかりやすく紹介。市では、市民に活用してもらうため、今後開催する防災講演会や防災訓練などで配布する予定です。